# 令和５年度
# 世田谷区姉妹都市
# 中学生教育交流派遣事業
## （オーストラリア・バンバリー市）
# 活動報告書

世田谷区

# 目　　次

発刊に寄せて　世田谷区長　保坂　展人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

派遣事業について

世田谷区中学生親善訪問団　名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

派遣前・後のスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

派遣日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

派遣の様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

生徒報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

引率者より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７

関連資料

バンバリー市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４２

世田谷区とバンバリー市の交流の歩み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３

## 発刊に寄せて

世田谷区がバンバリー市に初めて小学生を派遣したのが１９９１年（平成３年)、その翌年、１９９２年（平成４年）に姉妹都市提携が結ばれました。以来、小学生の相互派遣を中心に、マラソン大会への市民ランナーの相互派遣や写真展の相互開催など交流を重ね、２０２２年（令和４年）には姉妹都市提携３０周年を迎えました。

バンバリー市との中学生を対象とした交流事業は、平成２８年度よりはじまり、今回で３回目の実施です。令和２年３月以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により海外渡航規制がかかり、人と人との直接交流ができない日々が長く続きました。そして、コロナ禍による規制解除後、区として初めて姉妹都市へ送り出したのが今回の代表団のみなさんです。

まずは世田谷の生徒のみなさんが、元気に派遣期間を過ごせたことを大変うれしく思います。９月の派遣事業では、バンバリー市長への表敬訪問のほか、学校で授業を体験したり、バンバリー市の豊かな自然の中で校外学習を行いながら、滞在先の現地学校の寮や市民のみなさんから心温まる歓迎を受けたと聞いています。現地ならではの生活や文化、考え方・価値観を肌で感じ、理解するとともに、日本の生活や文化を見つめ直す貴重な機会になったのではないでしょうか。

みなさんは、「姉妹都市との架け橋」という、区の代表として期待される役割をしっかりと担ってくれました。今後、世田谷でもますます国際化が進んでいくことと思います。この取組で学んだことや得た経験をぜひ学校や地域へ生かしていってください。

そして、世界を視野に入れながら、今後の学校生活や人生を充実させていってほしいと思います。この経験が、みなさんにとって国際社会で活躍していくうえでの貴重なステップとなり、更なる成長につながることを期待しています。

最後になりますが、バンバリー市のミゲル市長及び市の関係者のみなさまには大変お世話になりました。そして、引率の先生方をはじめ、各中学校の先生方、保護者のみなさま、区内関係者のみなさまのご協力に心から御礼申し上げ、私の巻頭の言葉とさせていただきます。

令和６年３月

世田谷区長　保　坂　展　人

# 派遣事業について

# 世田谷区中学生親善訪問団
# 名　　簿

| | 生徒氏名 | 学校名 | 学年 |
|---|---|---|---|
| 生徒 | アラキ　ノノ<br>荒木　野乃 | 尾山台中学校 | 2年 |
| 生徒 | アンザイ　リン<br>安西　稟 | 緑丘中学校 | 2年 |
| 生徒 | カネマル　リュウイチロウ<br>金丸　隆一郎 | 芦花中学校 | 2年 |
| 生徒 | キタデ　ダイチ<br>北出　大智 | 東深沢中学校 | 2年 |
| 生徒 | コダイラ　クララ<br>小平　くらら | 梅丘中学校 | 2年 |
| 生徒 | コバヤシ　ノゾミ<br>小林　希 | 砧南中学校 | 2年 |
| 生徒 | サイタ　カオル<br>斉田　薫 | 砧中学校 | 2年 |
| 生徒 | サトウ　マキ<br>佐藤　真木 | 桜丘中学校 | 2年 |
| 生徒 | ハシオ　ユズナ<br>走尾　柚奈 | 松沢中学校 | 2年 |
| 生徒 | フジタ　リオン<br>藤田　璃音 | 弦巻中学校 | 2年 |
| 生徒 | ヤタガワ　マイコ<br>谷田川　まいこ | 烏山中学校 | 2年 |
| 生徒 | ヤマグチ　カズマ<br>山口　和真 | 用賀中学校 | 2年 |

| | 引率者氏名 | 所属 |
|---|---|---|
| 団長<br>校長 | コンタニ　ショウイチ<br>紺谷　祥一 | 喜多見中学校 |
| 引率<br>主幹教諭 | ヒロサワ　カズコ<br>廣澤　和子 | 梅丘中学校 |
| 引率<br>区職員 | イワタ　サトシ<br>岩田　悟史 | 文化・国際課 |
| 引率<br>区職員 | イマナカ　ハルナ<br>今中　春菜 | 文化・国際課 |

# 派遣前・後のスケジュール

| 項　目 | 日　程 | 時　間 | 会　場 | 内　容 | 出席者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 派遣決定<br>通知書交付式 | 5 月 28 日<br>（日） | 10:30<br>~12:30 | 深沢区民センター | ・代表団員決定通知書交付式<br>・事業概要の説明・自己紹介<br>・提出書類の配付 | 生徒<br>保護者<br>引率者 |
| 第 1 回<br>派遣準備会 | 6 月 18 日<br>（日） | 10:00<br>~11:30 | 梅丘パークホール | ·事業概要の情報共有<br>·参加者交流<br>・旅行会社からの説明 | |
| 第 2 回<br>派遣準備会 | 7 月 16 日<br>（日） | 10:00<br>~12:00 | | ・旅行会社からの説明<br>·注意事項、渡航準備等 | |
| 派遣前<br>研修会<br>（全4回） | 【第1回】<br>7 月 16 日<br>（日）<br>【第2回】<br>7 月 30 日<br>（日）<br>【第3回】<br>8 月 20 日<br>（日）<br>【第4回】<br>8 月 27 日<br>（日） | 13:00<br>~17:00 | 【第1回】<br>梅丘パークホール<br>【第2回】<br>北沢タウンホール<br>12F スカイサロン<br>【第3回】<br>教育総合センター<br>1F 研修室「たいよう」<br>【第4回】<br>区役所第 3 庁舎<br>3F ブライトホール | 【第1回】<br>・スローガン、役割等決め<br>・アトラクション検討・決定<br>【第2回】<br>・国際理解ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら」<br>（NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン）<br>【第3回】<br>・バンバリー留学体験のお話<br>（東京都市大学学生）<br>【第4回】<br>・オーストラリア・西オーストラリアについて学ぼう<br>（西オーストラリア州政府駐日代表部）<br>【全体を通じて】<br>・語学学習<br>・公式行事等でのスピーチ練習<br>・アトラクションの練習 | 生徒<br>引率者 |
| 第 3 回<br>派遣準備会 | 9 月 3 日<br>（日） | 11:00<br>~12:00 | 梅丘パークホール | ・出発当日、帰国日の案内<br>・派遣についての諸注意<br>・出発式 | 生徒<br>保護者<br>引率者 |
| 事後研修会 | 11 月 19 日<br>（日） | 13:00<br>~17:00 | 教育総合センター<br>2F 研修室「つき」 | ・報告書の作成<br>・報告会の流れ確認・発表練習 | 生徒<br>引率者 |

# 派遣日程

| | 月日 | 時間 | 内容 | 服装 | 宿泊 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 9/8<br>（金） | 16:30<br>17:00<br>19:00<br>21:05 | 世田谷区立教育会館　集合<br>世田谷区立教育会館から羽田空港へ　＜専用バス＞<br>羽田空港　到着<br>羽田空港　発　＜カンタス航空 QF062 便＞ | 私服 | 機内 |
| 2 | 9/9<br>（土） | 7:05<br>8:50<br>12:25<br>14:30<br>17:00 頃 | ブリスベン空港　着<br>ブリスベン空港　発　＜カンタス航空 QF935 便＞<br>パース空港　着<br>パースからバンバリーへ＜以降、専用バス＞<br>バンバリーカセドラルグラマースクール(BCGS 寮)　着<br>チェックイン、夕食、ミーティング、レポート作成等<br>入浴、就寝 | 私服 | BCGS 寮 |
| 3 | 9/10<br>（日） | 8:30<br>9:30<br>−14:30<br>15:00<br>−16:00<br>17:00 頃 | BCGS 寮　発<br>Maaladjiny（現地アボリジニ文化団体）による体験プログラム（On Country Narrative Bush Walks 等）<br>the Bunbury Museum and Heritage Centre 見学ツアー・ミニワークショップ<br>BCGS 寮　着<br>夕食、スピーチ・アトラクション練習、ミーティング<br>入浴、就寝 | 私服 | BCGS 寮 |
| 4 | 9/11<br>（月） | 8:30<br>9:00<br>−12:00<br><br>13:30<br>−15:30<br>16:30<br>−17:30<br>18:00 頃 | BCGS 寮　発<br>ファーマーズマーケット<br>ビクトリアストリート周辺の自由見学（班活動）<br>昼食<br>市長、副市長、国際関係委員会議長表敬訪問<br>バンバリー市職員（担当官）による Flexible events<br>青少年委員会（YAC）訪問・交流、Koolambidi Woola（青少年施設）見学<br>BCGS 寮　着<br>夕食、ミーティング、レポート作成等<br>入浴、就寝 | 黒・紺ポロシャツ＆落ち着いた色の長ズボン | BCGS 寮 |
| 5 | 9/12<br>（火） | 7:30<br>午前/午後<br>17:00 頃 | BCGS 寮　発<br>現地学校訪問（Bunbury Senior High School）、昼食<br>BCGS 寮　着<br>夕食、ミーティング、レポート作成等<br>入浴、就寝 | 黒・紺ポロシャツ＆落ち着いた色の長ズボン | BCGS 寮 |

| | 月日 | 時間 | 内容 | 服装 | 宿泊 |
|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 9/13<br>（水） | 8:30<br>9:00<br>−12:00<br>12:30<br>−15:00<br>17:00 頃 | BCGS 寮　発<br>the Volunteer South West とのボランティア活動①<br>（Aquarium work at Dolphin Discovery Centre）<br>Treendale Primary School 訪問、昼食<br><br>BCGS 寮　着<br>夕食、ミーティング、レポート作成等<br>入浴、就寝 | 私服 | BCGS 寮 |
| 7 | 9/14<br>（木） | 8:30<br>9:00<br>−12:00<br><br>13:30<br>−15:00<br>17:00 頃 | BCGS 寮　発<br>the Volunteer South West とのボランティア活動②<br>（Gardening activity with Thommo's Community Garden）<br>昼食<br>アボリジニ文化体験ツアー・アートワークショップ<br><br>BCGS 寮　着<br>夕食、ミーティング、レポート作成等<br>入浴、就寝 | 私服 | BCGS 寮 |
| 8 | 9/15<br>（金） | 8:30<br>10:00<br>−11:30<br>14:00<br>−15:30<br>15:30<br>−17:30<br>17:30 頃 | BCGS 寮　発<br>Ngilgi Cave 見学（洞窟探検）<br>昼食<br>Bunbury Wildlife Park 見学<br><br>バンバリー　⇒　パースへ移動<br><br>ホテル　着、チェックイン、夕食<br>ミーティング、帰国前の諸注意、荷物整理<br>入浴、就寝 | 私服 | ホテル泊 |
| 9 | 9/16<br>（土） | 9:30<br>10:40 頃<br>12:40<br>18:45<br>20:20 | ホテル　発<br>パース空港　着<br>パース空港　発　＜カンタス航空 QF648 便＞<br>シドニー空港　着<br>シドニー空港　発　＜カンタス航空 QF025 便＞ | 私服 | 機内 |
| 10 | 9/17<br>（日） | 5:25<br>6:30<br>8:00 | 羽田空港　到着<br>羽田空港から世田谷区立教育会館へ　＜専用バス＞<br>世田谷区立教育会館駐車場　着 | 私服 | |

*BCGS＝Bunbury Cathedral Grammar School　バンバリー・カセドラル・グラマー・スクール

# 派遣の様子

出発

BCGS での寮生活

アボリジニ文化団体との交流

Bunbury Museum and Heritage Centre 見学

市長表敬訪問

練習してきた歌を披露

# 派遣の様子

Bunbury Senior High School 訪問

授業体験

Treendale Primary School 訪問

Dolphin Discovery Centre
見学・ボランティア

Thommo’s Community Garden での
ボランティア

アボリジニアートワークショップ

# 生徒報告

## （感想文・まとめシート）

テーマ『派遣事業で一番印象に残ったこと』

## オーストラリア派遣事業を通じて

尾山台中学校　荒木　野乃

令和５年度オーストラリア派遣で、特に印象に残ったことを紹介します。

まず、Maaladjiny によるアボリジニ文化体験です。そこでは、ユーカリの葉を燃やした煙を体に纏わせる儀式や、ユーカリの葉で全身をはたく儀式を体験しました。全身をはたく儀式は、神社のお祓いに似ていると思いました。また、お話によるとカンガルーやエミューを狩って生活していたとおっしゃっていました。オーストラリアの先住民であるアボリジニの人々は、現地特有の生態系とともに過ごしてきたのだと知りました。そしてオーストラリアの人々が、アボリジニの人々と互いの文化を尊重していて、多様性の大切さを深く実感しました。

この日の夕方、私達は BCGS（Bunbury Cathedral Grammar School）の寮に入りました。BCGS の生徒たちがとてもフレンドリーに接してくれたことを、今でも鮮明に覚えています。夕食の後は、生徒たちと焚き火でマシュマロを焼いて食べたり、敷地内でポッサムを探したりしました。朝はメグパイの鳴き声が目覚まし代わりで、自然豊かな環境の中で時間を過ごしました。

次に、私たちは、Dolphin Discovery Centre で珊瑚の養殖活動をお手伝いしました。小さな珊瑚を移植する活動です。この活動は、環境の変動により減少している珊瑚を増やす為のもので、現地の特徴的な生態系を守り続けることを目的に行われています。現地の高校生も、長期休業などを活用し、ボランティア活動を生活の一部として楽しんでいることが印象的でした。

BCGS の寮で過ごす最後の日の夕食の後、BCGS の皆さんに、感謝の気持ちを込めて Waltzing Matilda という歌を合唱しました。その後、生徒に手紙を贈りました。その1人から私は、アボリジニ伝統画法の絵をもらいました。とても嬉しかったので、今でも自分の部屋に飾っています。

引率の方々や現地の方々など、たくさんの人たちに支えられて、私たちは派遣事業に参加することができました。この様な貴重な体験をすることができたことに大変感謝しています。

最後になりますが、出発から帰国まで携わってくださった全ての方々に、心から感謝したいと思います。本当にありがとうございました。団員のみんなにも本当にお世話になりました。ありがとう！！

これからも、世田谷区とバンバリー市が、より強い絆で結ばれる架け橋となれるよう、世田谷区のことを発信していきたいと思っています。

# 自然と共に生きる
## ~Do you know Aboriginal？~

10日
「**アボリジニ体験プログラム**」

14日
「**アボリジニ文化体験ツアー**」

BCGSの子からもらった
アボリジニの絵

# ～「文化を理解」したこの10日間～

アボリジニの人々はユーカリやエミュー、カンガルーなどの、オーストラリア特有の生態系と共に生きてきたことがわかった。

現地の人たちは、そんなアボリジニの人たちやオーストラリアの生態系を**とても大切にしている**と知った。

－「文化を理解するとは」－

①**知ることから始まる**

②**実際に体験してみる**

③**これからの活動に生かす**

最後に
国を越えての異文化交流という貴重な体験ができて本当に嬉しかった。今回の経験と知識を、これからの自分の将来に向けてもっと育んでいきたい。今回の海外派遣に関わってくださったすべての方々、本当にありがとうございました。

## Treasure for life

緑丘中学校　安西　稟

この派遣は私にとって初めての海外渡航でした。バンバリー市について調べたり、想像したりしていて楽しみにしている半面、不安も多くありました。ですが、現地に到着するとそこには私の予想をはるかに上回ったものがたくさんありました。色とりどりの花や、日本では見ることができないような動物がたくさんいる、美しい自然。とても明るく、フレンドリーで、私たちのカタコトの英語を一生懸命理解しようとしてくれる現地の人々。私はその時、現地の人々のような温厚な人になりたいと強く思いました。

私は一次試験の作文で「日本の文化を伝えると同時にオーストラリアの文化も受け取りたい。」と書きました。そこで私は日本の文化のサムライについて伝えようと思い、特技である殺陣を披露しました。現地の人々は想像以上に日本文化について知っていて、嬉しいリアクションをたくさんしてくれました。披露し終わった後も、一緒に写真を撮ってくれたり、「本物なの？」と話しかけてくれたりしました。

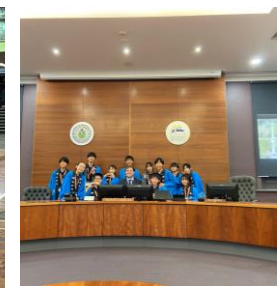
また、私はアボリジニの文化について受け取ることができました。アボリジニの言葉やアート、楽器。神に認めてもらえる儀式等もしっかり受け取ることができました。

このようなことから、私が作文に書いた「日本の文化を伝えると同時にオーストラリアの文化も受け取りたい。」という目標は達成できました。この経験は私の一生の宝物です。

独自の言葉　ドットアート　ディジュリドゥという楽器　儀式

# ABORIGINE

殺陣の披露　寮の子達との交流　寮の子達との交流　市長表敬



# TREASURES OF LIFE

## リーダーとして

芦花中学校　金丸　隆一郎

今回、僕たち派遣団は「Creating Ties again～小さな架け橋、大きな力～」という目標を掲げました。現地の方と共に達成することができたと思います。市長表敬に行った際、市長さんは世田谷区とバンバリーのこの関係をまだまだ続けていきたいとおっしゃっていました。嬉しい限りだなと思いました。また、世田谷区との文化交流として行われていた市場のようなものでは、僕たちとは初対面にも関わらず、たくさんお話をしたりしてたくさん笑い合いました。また、Bunbury Senior High School では授業風景や、テストの風景を見させていただきました。たくさん発言をしたり、意見を出したりしていたので見習うべきところを拝見させていただいたなと思いました。

この 10 日間僕たち派遣団はたくさん他の人が簡単には学べないような経験をさせていただきました。このような経験はもう二度とできないかもしれません。また、僕は、この派遣団のリーダーとしての立場でしたが、こんなにいい経験をさせてもらったのは一緒に頑張ってくれた 11 人なので僕は幸せ者だなと思いました。この派遣で学んだことをどこで活かせるか、どんなことに活かすのか、誰に活かすことができるのか、それを決めるのは今回派遣に行った僕たちです。たくさんのことにこれから挑戦をして、それぞれやりたいことをやったり、とにかくそのことを頑張ってみたり、自分のやりたいことを目一杯やれたらいいなと思います。僕ら派遣団はこれから先、またたくさんの壁に当たって、挫折して、また這い上がって、そしてまた落とされて、そうやって生きていくと思います。でも、その時この時これだけ頑張ったんだという思いになる様に、今回の派遣が特別なものになってほしいと思います。

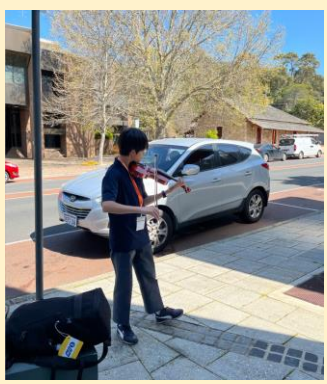
～仲間との思い出～

みんな一致団結をして市長表敬に臨めた

～初海外で見た景色～

日本では見れないインド洋

寮から見た星空



市長表敬の直前に路上で行った練習
ウォルチングマチルダというオーストラリアの愛国歌をここで発表する為練習をしてました。

バンバリーの方々に聞いてもらった「君が代」
最初の伴奏は僕がバイオリンを弾いて、その後はアカペラで歌いました。

寮で行った発表ミーティング、リハーサル
みんな、不安や期待があったのか少し緊張感が漂っていました。

## 環境問題解決までのロードマップ

東深沢中学校　北出　大智

オーストラリアでは、２０１９年から２０２０年にかけて大規模な森林火災が発生し、多くの樹木が焼け落ち、コアラなどの多くの動物が被害を受けた。この森林火災の様子を取り上げていたニュースを見たことをきっかけに、僕は環境問題に関心を持った。

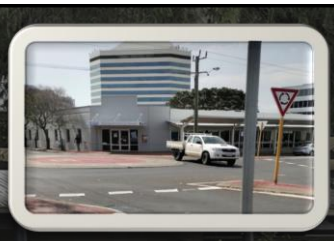
僕はこの派遣で、バンバリーやオーストラリアの人たちは環境問題についてどう捉えて、どのような取り組みをしているのかを調べるために、バンバリーの街の様子や人々の生活の仕方を観察した。

まず一つ目に注目したのはラウンドアバウトだ。ラウンドアバウトは、円形になっている交差点で一方通行に走れるため、交通渋滞や交通事故の防止にも繋がる。また、信号機の設置が不要なため信号機がある交差点と比べて、アイドリングが減少し、温室効果ガスの排出を抑えることや、停電時の警察官による誘導が必要なくなるなど多くのメリットがある。

二つ目は、日本では爆発物等の安全性の観点から廃止されたものの、人口があまり多くないバンバリーだからこそできるような、ポイ捨て対策として歩道で一定の距離にゴミ箱の設置を行っていた。日本では昨年の７月からビニール袋を有料化して、プラスチック削減を呼びかけている一方で、オーストラリアはスーパーマーケットなどでビニール袋を販売せずに何度も使用できるエコバッグのみを販売していた。これらは、オーストラリアの国、人々の環境問題に対する意識の現れだと僕は考える。

また、６日目に訪れたドルフィンディスカバリセンターでは、成長したサンゴを写真のように小さく切って土台に貼り付けるというサンゴ礁の保護の一環の活動を行った。さらに、足を怪我して保護されたウミガメの大きさや体重を測るところを見学させてもらうという、とても貴重な体験をさせてもらい、人間の無責任な行動によって苦しんでいる動物が世界中にいるというのは、とても遺憾に思った。

僕はこの派遣を、環境問題解決への一歩目だと考える。この一歩目を踏み出すために、世界の中でも環境問題に対する取り組みが進んでいるオーストラリアで対策などを学べるチャンスを与えてくれたことに深く感謝すると共に、この派遣を無駄にしないために、まずは、この現状を身近な人に伝えていき、将来、環境問題を解決するためにこれから歩んでいきたい。



アイドリングを
減らす、
**ラウンドアバウト**

ポイ捨てを防止の、
**分別しやすい**
**ゴミ箱**

サンゴ礁を
守るための、
**保護活動**

# BUNBURY
# ～オーストラリアと環境問題～

自然豊かな土地に生息する、
たくさんの種類の、
**オーストラリア固有の動物**

## ☆オーストラリアの環境問題への取り組み☆

### ♤取り組みの観察

オーストラリアは環境問題への取り組みなどが世界の中でもかなり進んでいるということをニュースで聞いたことがあり、実際はどのような対策をしているのかを観察した。すると、ラウンドアバウトのような日本にはないようなものを多く見かけ、日本にも取り入れるべき点も見つけることができた。

### ♢観察からの気づき

オーストラリアには、とても多くの固有動物が生息していて、危険な動物もいれば、可愛らしい動物もいた。ただ、動物の中でも多様性があり、一つの動物が絶滅すると、生態系が崩れる危険性もある。これは人間と共通していることだと思う。改めて、多様性の重要性を知ることができた。

### ♧まとめ

このような充実した派遣事業を経験できたことに感謝の気持ちを持って、この派遣をバネとして環境問題についての勉強や研究などに励み、近い将来、環境問題を解決に導いていきたい。

## オーストラリアでの経験

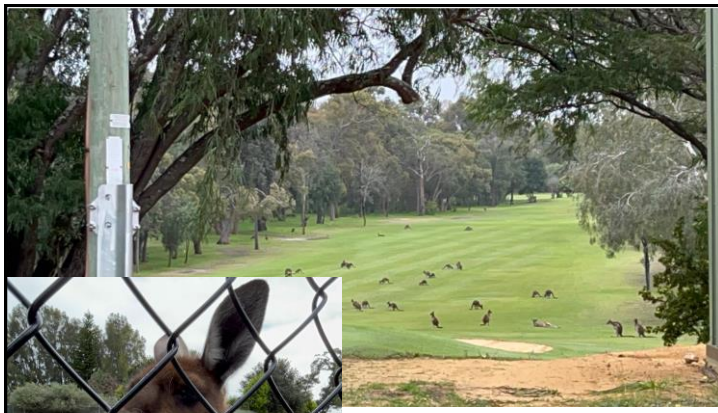
梅丘中学校　小平　くらら

初めてオーストラリアに訪れて私が 1 番印象に残ったことは地域の学生との交流です。フレンドリーに話しかけてくれて、言語が違っていても、ジェスチャーや簡易的な英語を使って楽しく交流することができました。現地の学校への訪問では現地の学生たちと共に授業を受けました。日本の授業では先生の話を聞きノートにまとめることが多いのに対し、オーストラリアの授業は、生徒同士が意見を交流したり、自らが調べたことをレポートにまとめたりするような授業が多いように感じました。私が受けた授業では先生に質問するよりも友達同士で問題を解決することが多いと思いました。授業と授業の間には morning tea のような時間があり、生徒たちが芝生や、好きな教室で自らが持参したお菓子を食べていました。私も現地の生徒たちと話をしたり、現地のお菓子をもらったりして、とても楽しい時間になりました。学校の校舎は開放感がありました。Bunbury Senior High School ではバディーの子と学校にあるものでビンゴをしました。その時すれ違った子たちがみんな挨拶をしてくれて、とてもフレンドリーだと感じました。何か困っているときは優しく教えてくれて、親切だと思いました。

Bunbury Wildlife Park では日本では見られないカンガルーやエミュー、他にもたくさんの種類の鳥がいて、指定された動物たちには餌をあげることもできました。動物によって好みの餌が違うので好みの餌だけを器用に食べる姿がとても可愛かったです。日本にいるときはカンガルーやエミューは凶暴なイメージがありましたが、撫でられたり、手で直接餌をあげられたり、想像していたよりもとても人懐っこい性格でした。

私たちは今回 Creating Ties Again というテーマを掲げてオーストラリアに訪れました。オーストラリアで知った知識を世田谷区で伝え、世田谷区とオーストラリアの架け橋ができればいいと思っています。

他にも Treendale Primary School でけん玉や福笑い、折紙を使って日本の文化を紹介したり、水玉のようなドットアートやパン作りなどのアボリジニの文化と直接触れ合ったりしました。



オーストラリアの人々は動物をとても大切にしている

↓

オーストラリアの国章にはカンガルーとエミューが1匹ずついる

カンガルーやエミュー　動物との関わりが強い

Bunbury wildlife park

オーストラリアの動物

## オーストラリアを訪れて

- 現地に行く前
- うまく話せるか不安だった

↓

- 現地に行った後
- 自信を持ち、フレンドリーに話せば自分の気持ちを伝えることができた

## オーストラリアでの忘れられない経験

砧南中学校　小林　希

僕はオーストラリアで素晴らしい経験をし、たくさんの学びがありました。そこで僕は、オーストラリアで楽しかったことや思い出、魅力、驚いたことをそれぞれ１つずつ、紹介します。

まず初めに、バンバリーの魅力を紹介します。バンバリーは西オーストラリアの海沿いにある街です。そこにはビーチがたくさんあり、海の近くにある川もとても綺麗でした。これらはどれも綺麗でとても心惹かれます。そして、バンバリーはウォールアートを推薦していて、アボリジニの人の思いなど、どれもメッセージ性の強いものばかりでした。これらが合わさりとても綺麗な町並みになっているのが大きなバンバリーの魅力です。

次に驚いたことを紹介します。それは自然が豊かなことです。これは魅力の一つになってしまうのですが、バンバリーはものすごく自然豊かでした。まず街を見たときに必ず緑が視界に入ってきます。そのくらい街は自然豊かで綺麗でした。また、僕たちは８日目にCapel Golf Clubというゴルフ場に行きました。そこではゴルフができるのですが、驚くことにカンガルーが普通に住んでいるのです。そこら辺をぴょんぴょん跳ねて移動していました。これはバンバリーに素晴らしい自然があるという証拠です。

３つ目に楽しかったことを紹介します。バンバリーでの経験は全て楽しかったのですが、特に楽しかったのは夜みんなで夜食を作ったことです。これはどうでもいいことに聞こえますが、みんなで作ることの楽しさを味わいました。そこでは、ドラゴンフルーツを食べたり、オーストラリアのローストビーフの入ったカップ麺を食べたり、ふざけながら家ではできないことをたくさんしました。そして、寮の電子レンジが壊れていたので、ただ作るのではなく、自分達で工夫して作っていました。

最後にバンバリーでの１番の思い出は、寮の人たちと友達になったり、一緒に遊んだり話したりしたことです。男子たちは夕食の時に一緒に食べながら、自分達の言語を紹介したり、好きなアニメやおすすめのお菓子などたくさんのことを話したりし、仲を深め、そこから夜コモンルームでビリヤードや卓球をして、忘れられない最高のひとときを過ごしました。僕たちはその先で連絡先を交換して、今でも色々なツールを使って話しています。

僕はバンバリーでの体験や感動を一生忘れません。そしてこの体験はかけがえのないものだったと思います。これからは友達と連絡をとりつつ、バンバリーで経験したことを周りの人たちに広めたいです。

# オーストラリアの食文化

*The Diversity of Australian Food*

たくさんの果物が並べてあって、綺麗なだけではなくて、とても美味しそう！！

パックで入ってるお肉は少なく、店員さんに何枚や何g
買うか伝えて買う方式！！
しかも一枚一枚がとっても厚い

値段表記も1kg当たりで表記されていて、隣の量りで重さを量ってから買います。

# オーストラリアのおいしい食べ物

## VEGEMITE

ベジマイトはパンに塗り、味は日本の味噌に若干似てるかも、、、？
オーストラリアの人はパンに塗って食べます。

## Murray river pink salt

西オーストラリアの川から取れるピンクの岩塩！ガイドさんー押しの塩で男子は全員買いました！

## Fairy bread

食パンにバターを塗り、スプリンクルをかけて食べる甘いおやつ
小学校のおやつで出てきて甘いけど美味しかったです！

## Steak

一見普通のステーキだが、ソースの味が濃く、サイドにはポテトがあり、濃い味はサラダのオリーブとも合います！

## 僕らの 10 日間

砧中学校　斉田　薫

４月ごろにオーストラリアの派遣が決定してから、あっという間に当日が来た。とても充実した１０日間となり、もっと長く滞在したかったほどだ。だが、出発するまではとても緊張していた。僕自身は、英語があまり得意ではなく、きちんと理解できるか正直不安だった。しかし、仲間たちが自分から新しいことを知ろうと一生懸命だったことに感化され、新しいことを学びたいという欲の方が不安や心配よりも勝っていた。

オーストラリアには食事をはじめ様々なことが日本と違っており、アボリジニの文化、歴史があった。例えば、日本のスーパーとは違い、野菜等は包装されておらず、大胆に並べてあり、1kg あたりの重さで値段が決まっているような仕組みであった。買い物がとても楽しかった。

アボリジニの方の話では、人間は自然の恩恵を受けて生活しているという考え方や、アボリジニは文字をもたない代わりに、ダンスや話、絵で後世に伝えていっていると教えてくれた。文字をもたないことにとても驚いた。自然はこれからも残していかないといけないと改めて実感できた。

僕は、今回の海外派遣で、新しい知識等はもちろん、多文化でも心を分かち合える優しさ、多くの人との協力の大切さについて深く考えることができた。カタコトの英語で頑張って伝えようとしている僕らに嫌な顔ひとつせず、一生懸命に聞き取ろうとしてくれたオーストラリアの方々がたくさんいてとても嬉しかった。それは、今回のスローガンである「Creating Ties again ～小さな架け橋、大きな力～」と重なり、一生懸命に伝え、聞き合うことが「再び繋がった」ことへの証明だと考える。そのスローガンは、オーストラリアの方々と繋がるという意味の他に、一緒にオーストラリアに行った先生方や仲間達と海外派遣を達成し、新しく繋がることができたという意味にもなる。一人でも欠けていたら達成できずこのことにも気づけなかったと断言できる。今回のすべての出会い繋がりに感謝し、これからも大切にしていきたい。

Jaysen Miguel 市長との記念写真（市庁舎にて）

# 人生の宝の１つになった10日間

10日間全てが盛りだくさんで、とても思い出深い時間だった。研修会で練習してきた歌や踊りを現地でもしっかりとできたときの達成感は今でも覚えている。現地の子たちはカタコトな英語を話す僕らに嫌な顔せず聞いてくれた。例を出したらきりがないほどのことをオーストラリアで学び、感じることができた。そんな人生の宝の１つになった時間だった。

僕自身は、英語があまり得意ではなく、きちんと理解できるか正直不安だった。しかし、仲間たちが自分から新しいことを知ろうと一生懸命だったことに感化され、新しいことを学びたいという欲の方が不安や心配よりも勝っていた。

# 全ての出会い・つながりに感謝を

僕たちはバンバリーの人たちとまたつながることができ、それと同時に一緒にバンバリーに行った仲間や先生たちとも今回の派遣を通してつながることができた。

世田谷区の方や引率の先生。そして一緒に派遣に行った仲間やオーストラリアで出会った人々、全員に感謝をし、この派遣で得られたものをこれからも大切にしていきたい。

## 僕の出会ったオーストラリアの人々

桜丘中学校　佐藤　真木

今回の派遣に選ばれた時の驚きと緊張を、今でも昨日のことのように覚えている。受かって良かったという嬉しさのなか、僕にとって初の海外、全く知らない現地の人達と上手く交流できるかという不安も確かに同居していたのだ。今思い返せばその不安は、羽田空港から飛行機で飛び立つその日まであったと思う。しかしBCGSの寮に着いた時、そんな気持ちはいつの間にか消えていた。BCGS の学生たちが、満面の笑みを浮かべて初対面の、異国から来た僕たちを出迎えてくれたのだ。夕飯の時間も、二人の男子学生が僕たちの事を快く受け入れてくれ、そのうちの一人は 次の日も、大人数の僕たちに対してたった一人で、食事を共にし、心を配ってくれた。また、僕達が拙い英語で話しかけても、面倒がらずに、丁寧に会話をしてくれる学生達の姿に、僕は深い感動と安心を覚えた。

オーストラリアの人々は、老若男女関わらず本当に親切で、友好的だった。僕達をバスでさまざまな素晴らしい所に連れて行ってくれた運転手の方々、初めて聞くアボリジニ文化の事を熱く、丁寧に教えて下さったお二方、とてもアクティブで世田谷のことを理解しようとして下さる市長や市の方々、優しく、心のある態度で僕達のことを迎えてくれた現地の公立の学校の学生達、the Volunteer South West の明るく気さくな皆さんなど、数え出すとキリがない。彼らの積極的で広い心が、文化や言語の違いという壁を壊し、平等で、より親密なコミュニケーションを成立させていたのだろう。そんなオーストラリアの人々のおかげで、今回の派遣事業はとても意味のある、充実したものとなった。また、僕達世田谷の中学 2 年生が掲げた「Creating Ties again～小さな架け橋、大きな力～」という目標も、この小さな架け橋を受け取る側の現地の人達の存在があった上で、達成できたと思う。

このようなオーストラリアの人々の寛容な気持ちは、移民が多い共生社会だからこそ生まれたものなのかもしれない。そんな人との繋がりや可能性の大きさを肌で感じ、僕は今回の派遣事業で、経験を通して挑戦することの大切さを学ぶことができた。実際にオーストラリアに行く直前までは、様々な不安でいっぱいだったが、今思い返せば、あのとき、自分からこの派遣事業に応募して良かったと思っている。また、現地に着いてからも、失敗を恐れずに話しかけてみたり、思い切って行動してみたりすると、必ず何かしらの学びを得ることができた。それはオーストラリアだけでなく、どこでも通用する大事な考えだと思う。この派遣事業は、そのことを気づかせてくれることとなった。この十日間というのは、僕のこの先の人生を見ればほんの一瞬の時なのかもしれないが、僕にとっては、一生の宝物だ。「貴重」という言葉でも足りないほどの経験をさせて下さり、僕達のことを支えてくださった全ての人々への感謝の気持ちを忘れることなく、この先待ち受けている様々な困難にも、挑戦し続けていきたい。

# AUSTRALIA

## ～僕の出会ったオーストラリアの人々～

アボリジニの長い歴史と文化

現地の人々との交流

現地の学校と子供達

オーストラリアの雄大な自然

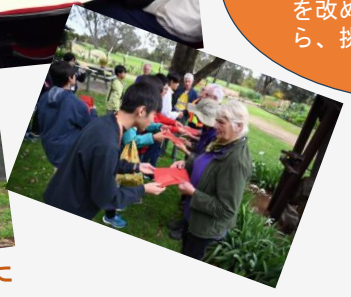
## とてもフレンドリーなオーストラリアの人々！

### オーストラリアの共生社会

オーストラリアには様々な人種・移民が存在していて、お互いが認め合うような意識があるため、初対面の異国の僕たちにもとてもフレンドリーだった。

### 挑戦することの大切さ

そんなオーストラリアの人々に囲まれ、優しく接してもらい、人と人との繋がり、可能性の偉大さを改めて知った。そこから、挑戦することの大切さを学べた。



### 最後に

今回の派遣では、挑戦をすることの大切さに気がつくことができた。このような、「貴重」という言葉でも足りないほどの経験をさせてくださった方々への感謝を忘れずに、これからも、様々なことに挑戦を続けていきたい。

# オーストラリアの自然

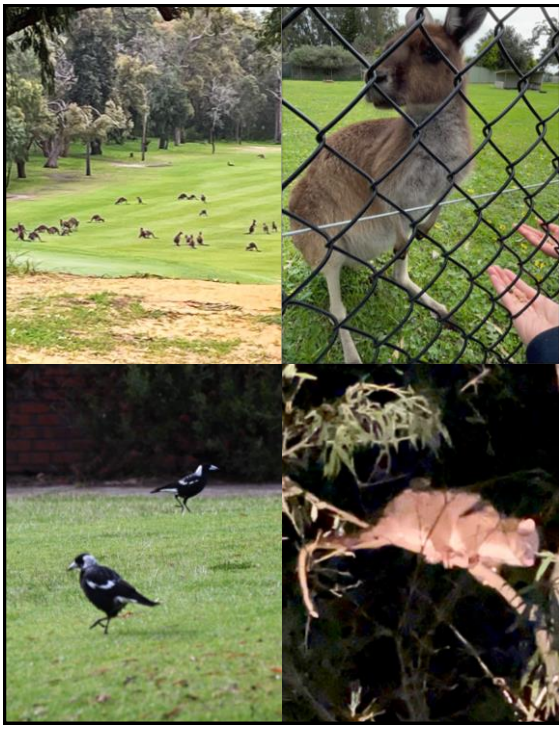
松沢中学校　走尾　柚奈

私は今回の派遣で初めて海外を訪れることになりました。最初、派遣が決まった時からずっと、楽しみな気持ちやワクワクがあった一方で、初めてパスポートを作り、初めてパッキングというものを知り、初めてそれを行うなど、全てが初めてのことばかりで、正直不安の方が大きかったです。また、緊張して現地の方と上手くコミュニケーションが取れるのかどうか、とても心配でした。ですが、そんな私を支えてくれたのは、同じ派遣団の仲間でした。ほとんどの人が海外渡航経験があり、右も左も分からないような無知な私に、「これはこうするんだよ」、「あれはああするんだよ」と全て教えてくれました。また、引率してくださった先生方や世田谷区の職員の方々のおかげもあり、バンバリー市に到着する頃にはほとんど不安はなくなりました。

私はオーストラリアに着いて自然の美しさに魅了されました。バンバリー市には大きくて綺麗な湖や川がありました。そこではかなり近くでイルカが泳いでいるのを見ることができました。川の流れが穏やかな日はさまざまな水上アクティビティを楽しむことができるそうです。また、多くの野生動物が生息しているため、ゴルフ場にたくさんカンガルーがいたり、今回私たちが泊まった Bunbury Cathedral Grammar School の寮では夜に野生のポッサムを探したり、マグパイという鳥を見たり、間近で色々な種類の動物を観察することができました。

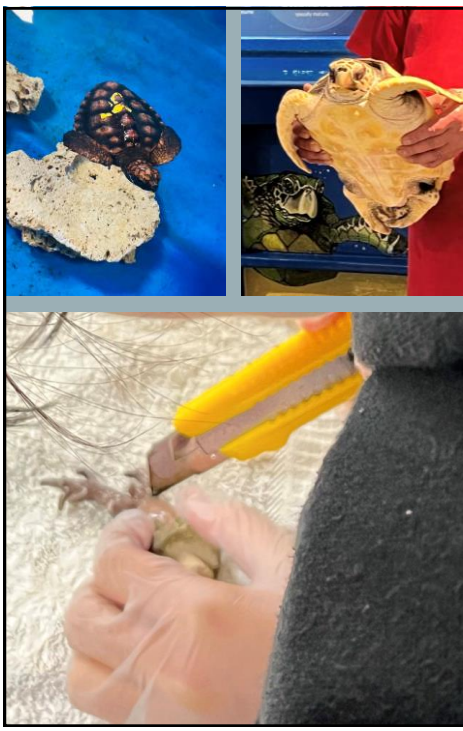
私は、森林火災や地球温暖化の影響の変化の中で、どのようにして動物を守っているのかを現地の方に聞いてみたいと、作文に書きました。今回このことについて聞くことはできませんでしたが、色々なボランティアをする中で『現地の人々の愛』と『動物たちのために』という意思をとても強く感じました。これらのおかげで、動物たちは自由に安心して暮らせているんだなと思いました。今回のボランティア活動を通して、野生動物の保護などに興味を持ったので、日本でも野生動物の保護に力を入れている人達と一緒に、ボランティア活動をしてみたいと思いました。

今回、このような貴重な機会を与えてくださった世田谷区の職員の方々、本当にありがとうございました。オーストラリアでの経験を、これからの学校生活にも活かせるよう、何事にも全力で取り組んでいきます。



## オーストラリアの自然🌳

- 市全体が緑色
- 野生の動物たちとととても近くで触れ合うことができる
- 景色が美しい



## 野生動物との関わり

- 珊瑚礁の骨格の移植
- 怪我をした野生のウミガメの保護

→オーストラリアの人々は生き物を大切にしている

## 美しい街並みと人々の温かさに触れて

弦巻中学校　藤田　璃音

私は、オーストラリアのバンバリー市を訪れて、魅力に感じたことが４つあります。

１つ目は、バンバリー市の美しい街並みです。バンバリー市はユーカリなどの美しい木々に囲まれています。海辺や川沿いもとても美しい景色でした。カンガルー注意の表札、日本にはない『BUMP』と書かれた肘で押す面白い信号機も、おしゃれなデザインでした。コリー川では野生のイルカが泳いでいる様子を見ることができました。ゴルフ場では、野生のカンガルーの群れに遭遇しました。見惚れてしまうほど美しい風景に動物が共生しているそんな温かみを感じました。

２つ目は、街に溢れているアート作品です。オーストラリアの先住民であるアボリジニの絵や道路のあちらこちらに銅像がありました。そこで、オーストラリアでは、アボリジニの古き良き文化を現代に生きる人へ継承しようという強い思いが伝わりました。また、それぞれの絵から歴史を感じることが出来るそんなアートを街に取り入れようという人々の先住民を尊敬する素敵な思いも伝わりました。

３つ目は、現地の人々についてです。英語があまり得意ではない私に現地の人達が片言の英語を一生懸命聞き、ジェスチャーを交えて会話をしてくれました。優しくて明るく親切な人達と接する中で、私も自然と積極的に関わることができました。居心地の良い寮での生活、様々な施設の見学、買い物などを通して、あらゆる場面でバンバリー市の人々の温かさを感じました。

４つ目は、仲間との出会いです。１回目の研修会の時、話したこともない違う学校の子ばかりでとても不安でした。でも研修会を重ねていくたびに、１１人一人一人と仲良くなれました。いざ、出発してみるとトラブルもたくさんありましたが、その都度助け合うことで絆を深めることができ、また仲間の温かさを感じることも出来ました。このメンバーで海外派遣に行ったということが私にとって、とても大きな経験になり、最高の思い出となりました。

私は、海外派遣という貴重な経験を通して、言語を超えた人との関わりの中でオーストラリアの文化、人々の温かさに触れ、日本を飛び出して世界を見ることで、新しい気付きが生まれました。私はこの経験を大切にし、オーストラリアの人々にもらった温かさを人に与えられるような人になりたいと思いました。

最後に、この海外派遣を支えてくださったすべての方々、引率をしてくださった先生方、世田谷区の職員の方々、本当にありがとうございました。

街に溢れるアート作品
かわいい動物たち
美しい街並みと人々の温かさに触れて
おいしい果物
美しい街並み

現地の人々と出会って
仲間と出会って
BUNBURY
WILDLIFE PARK

# オーストラリアの学校

烏山中学校　谷田川　まいこ

オーストラリアに滞在している間、私たちは３つの学校に行った。１つ目は、私たちが泊まっていた寮がある BCGS という私立の中高一貫校だ。２つ目は、Bunbury Senior High School という公立の中高一貫校、そして３つ目は、Treendale Primary School という公立の小学校だ。

オーストラリアの学校と日本の学校には、大きな違いがあった。まず、学校の登校時に日本では、歩いて行くか、高校だったら、自転車通学や電車通学などが一般的だ。しかし、オーストラリアでは、親が車で学校まで送り迎えしてくれるのが主流だった。日本では治安が良いため、1 人で通学できるが、海外では治安がそこまで良くないため、両親が送ってくれる。

次に、オーストラリアでは、お昼ご飯の前に軽食を食べる文化がある。朝登校してから、2 時間ほど授業を行った後、間食の時間がある。そして、その後にまた少し勉強した後、お昼ご飯となる。お昼ご飯は、どこで食べても良い。お弁当を家から持ってくる子や、カフェテリアで食事を買う子もいる。日本が見習うべきだと一番思ったのは、授業の様子だ。Bunbury Senior High School に行った時、私が参加した授業では数学のテストを行なっていた。日本だと、テストが終わっても何もせずに時間が終了するまで待っていなければいけない。だが、オーストラリアでは、テストが終わった子たちは先生に答案用紙を回収してもらった後、各自、iPad でゲームをしたり、ネットサーフィンをしたりしていた。この方法は、日本よりも時間を有効活用できるので、日本でもそのようにできたら良いと思う。

オーストラリアの学校の敷地は、日本の学校の敷地の何倍も広い。特に、小学校は広い校庭に校舎全体が取り囲まれているように見えた。1 クラスの生徒数は２０人ほどで、日本の中学校と比べると３分の２～２分の１程度だった。私たちが泊まった寮では、common room という、誰でも使える部屋(家でいうとリビングルームのように遊んだりくつろいだりできる部屋)があった。そこでは、現地の寮生と一緒に卓球をしたり、映画を観たり、クッキーを作ったりして遊んだ。そして、寮には門限があり、その時間までに自分達の寮の部屋に入らないと、警報音がなる。休日ではない日は、警報音がなる時間が夜の 9:30 で、休日は夜の 10:30 だった。そのため、現地の寮生たちは寝るのが早く、日本人の生活と比べると随分と健康的だと感じた。

バンバリー市長にも会った。市長は若くて大胆な人だった。若いからこそ古い価値観の人々からは反発もあるようだが、それを乗り越えるだけの強さも持ち合わせている人のように見えた。市民に人気があり、日本の市長たちとは一風変わった人も、このような教育環境だからこそ誕生したのではないだろうか。

私がオーストラリアに行った目的は、オーストラリアの学校が日本とどのように違い、どんな良い部分があるのかを知り、将来に役立てたいからであった。現地では、上に書いた通り、オーストラリアの学校の良い部分をたくさん知ることができた。この経験を活かして、将来は「財団を創り、チャンスには恵まれないが、才能を持った子どもたちを海外に留学させたい」という夢を叶えたい。

## わたしから見た オーストラリアの 学校の良いところ

① 自由(テストが終われば ネットサーフィン)

② 広い(校舎が校庭に囲まれている)

③ 生徒数が少ない

## 日本にも取り入れるべき理由

① 時間の活用の仕方を自分で考えることができる
→自立した人、自分の意見をしっかり持てる人

② のびのびと過ごせる
→精神的にも開放的になる

③ 1人1人の教育の質が高くなる
→個性を尊重した教育

**世界を渡る人になる**

## 地球のために

用賀中学校　山口　和真

私はこの派遣事業に海外の人は日本人に対してどのようなイメージをもっているかを知りたくて応募した。出発式から派遣期間、そして帰ってくるまでの時間は、長かったようで本当に一瞬の充実した日々だった。

そんな中で我々は the Volunteer South West というボランティア団体の皆さんとともにボランティア活動を行なった。

最初の活動は Dolphin Discovery Centre という水族館で行なった。ここはボランティア団体の人たちによって無償で提供されている。中に入ってみると、本当に無償で提供されているのかと疑うほど清潔感があり、また設備がかなり整っていた。ここでは自然界で何らかの怪我を負ってしまった海洋生物を自然界に復帰できるまで回復させたり、バンバリー近辺で数が減っているものたちを増やす取り組みを行なっていたりしていた。我々はサンゴを増殖させるため、彼らの移植を行なった。生きたサンゴの枝を切り取り、それを土台にくっつけ海に植えるというものだ。やってみるととても大変でそれでもやり続けるボランティアさんたちの熱心な姿に深く感動した。

次に訪れたところは Community Garden という農園である。そこでは我々は分担して普段ボランティアさんたちが行なっている仕事を手伝った。くわを使ったり台車で肥料を運んだりと力仕事が多く、大変だった。Community Garden の人たちは皆比較的お年を召した方が多い印象だったが大変な仕事をやっておりとても逞しいと感じた。

また仕事をする中でボランティアの方々とコミュニケーションを取ることができた。私はそこで彼らに、「日本人に対してどのようなイメージを持っていますか」と聞いた。すると、clever や kind、positive など私でもわかるような簡単な単語で返答してくれた。その後私は、日本人の多くの人がいつも最悪の場合を考えてしまうことを伝えると、とても驚いていた。そして「今度日本に行ってみるよ」と言ってくれる人までいた。

この経験を経て、私はボランティア団体に対してとても興味を持った。彼らのような親切で、地球のために頑張っている人たちのためになる社会を作りたいと思う。この機会を作ってくれたすべての人に感謝し、行動で還元していこうと考えた。

## Aquarium

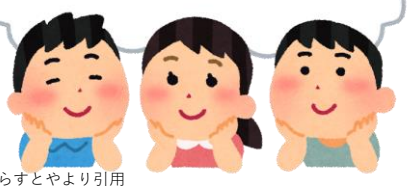
# 貴重な経験

3つ全部ボランティア

**All solunteers！**

## Garden

日本人のことどう思ってるんだろう？



いらすとやより引用

## Meals

みんなフレンドリーなんだろうな…

# ～現地での生活を経て～

**自分の目でみて感じることの大切さを知る**

僕が現地に行くまで持っていた彼らに対するイメージはフレンドリーで陽気なイメージ

しかし…

現地に着くとさまざまな性格や事情、文化を持った人達がいた

→

現地の人が我々に現実とは異なるイメージを持っていたように

→

理解し合うには実際に触れ合って見る必要がある

最後に
今回このような機会を与えてくださった、世田谷区教育委員会の皆様、保護者様 そしていっしょに派遣を作り上げてくれた団員のみんな、先生方、今中さん、岩田さん本当にありがとうございました。
私は今後、これらの経験を活かして、さまざまなボランティア活動に参加するとともに、外国での経験をたくさんの人と共有して、日本と世界中の国との仲が更に良くなるように努めたいと思います。

# 引率者より

KAYA-GOOMBURRUP-WALUP-BURALUP-KALGULUP-KOONBALUP
YONGKA-WETJ-KAARDA-NYINGARN-BIBJOOL-KOOMAL-KWANDA-YORN-KURKA
DJDI-DJDI-KOOLBARDI-WANITJ-DOONART-MANI-YOONINDJ-WARDONG-WARNO
DJILDIT-KWILENA-KWILA-BUMBA-KARI-DULKI-BULYA-KOORUK-KEP
MDORT-NGOON-DJOOK-MAAMIN-NGARNGK-KAABLY-MORAN-BOONA

## 世田谷区姉妹都市中学生教育交流派遣事業を終えて

団長　喜多見中学校長　紺谷　祥一

『めちゃくちゃ楽しみだった筈なのに、何でこんなに緊張するのだろう…』 ― これは、羽田空港の出発ロビーで拾った、派遣メンバーＫさんの声でした。Ｋさんは帰国の日、『ああ帰りたくない。一生ここに居てもいい…』と、漏らしました。このエピソードが象徴するくらい、令和５年度世田谷区姉妹都市中学生教育交流派遣事業は大成功だったと感じています。

５月２８日、派遣決定通知書交付式で顔を合わせた代表１２名の子どもたちは当初とてもよそよそしく、私も少し不安を覚えました。ところが、９月８日の出発までの都合７回の準備会や研修会を重ねるに連れ、彼らは打ち解け、パフォーマンスやスピーチの準備を楽しみながらこなす姿がありました。研修中、彼らが掲げたスローガンは、「Creating Ties again ～小さな架け橋、大きな力～」。コロナ禍で中断していた対面での交流の再開。子どもたちは世田谷区と Bunbury 市との絆の再構築という大きなミッションを背負っていました。そして、現地では、何事にも寛容で優しさに溢れるオーストラリアの人々、多様性が日常にあふれる文化、雄大な大自然、それらに全身を抱かれながら、もてる力をよく発揮し十分にその目的を果たしました。夢のような体験を共有した後、既に１２名の子どもたちは「特別な間柄」として互いに固い絆を結んでいたことも大きな成果の一つです。

私は特に〝日常生活に浸透する多様性〟について着目する機会を得ました。左の掲示は、滞在５日目に訪問したある公立小学校の教室に貼られていたもの。現地では小学校高学年から外国語を学ぶそうですが、経済的、地理的な理由から中国語、日本語、インドネシア語を教える学校が多く、この学校では日本語が選択されていました。“なぜ、日本語を学ぶのか？”という基本的な問いに学校としての答えが列挙されています。どれも理由が明確です。外国語を学ぶ過程が母語を客観視できるとも指摘されています。更に、“自信につながる”と朱で強調があります。外国語の学習は“できなかったことができる”という体験を容易にするからです。さらに５番には、きっちりと職を得るに有利と言及されています。現地の物価は非常に高く感じましたが、広大な国土にあって人口密度は低く、その分輸送コストや人件費が高くなるからだそうです。勢い、特別な技能をもつ専門職は優遇されることから、外国語学習も職を得るのに有利という構図があります。圧巻は７番目と８番目の理由。他国の素晴らしい芸術や文化の理解、文化的共感、更には他者に対する思いやりに通じるという理念が、掲げられています。全人口の５割が移民からなるオーストラリア

では共生は日常であり、多様性の尊重がしっかりと教育される背景を目の当たりにしました。

最後になりますが、今回の派遣に際しては、団員ご家族の皆様のご理解とご協力、Jaysen Miguel 市長をはじめとする Bunbury 市の素晴らしい方々のご尽力、そして世田谷区の厚いサポートをいただきましたこと、心より感謝いたします。そして、代表１２名の子どもたちが、それぞれの学校で、また、社会で、この貴重な経験を通じて得た自らの成長を糧に一層活躍する姿を期待するばかりです。世田谷区と Bunbury 市との人的交流の再開に立ち合え、また、団長として少しでもそのお手伝いができたのならば、甚だ幸せです。ありがとうございました。

## 派遣団の生徒の力と現地の人々の温かさに触れて…

梅丘中学校　主幹教諭　廣澤　和子

“Creating Ties Again　～小さな架け橋、大きな力”という派遣団としてのスローガンを掲げ、我々の活動はスタートした。コロナ禍を経て、４年ぶりの派遣事業。団の生徒たちの選考作文には、オーストラリアの森林火災や環境課題への取組など、関心のあるテーマについて事前に調べ、現地で調査したいという熱意が書かれており、目的意識の高さに圧倒された。また、得意とするスポーツや音楽、殺陣などで交流を深めたいという生徒もいた。派遣団の活動内容も以前と異なり、手探りの状態ではあったが、この派遣を通じて彼らの学びに少しでもつながるサポートができればと身が引き締まる思いであった。

一人一人の特技、個性を活かしたアトラクションの演目が決まり、市庁舎や現地の学校で披露するため、７月末から練習に入ったが、全員が揃って合わせる十分な時間もないまま、あっという間に出発を迎えた。

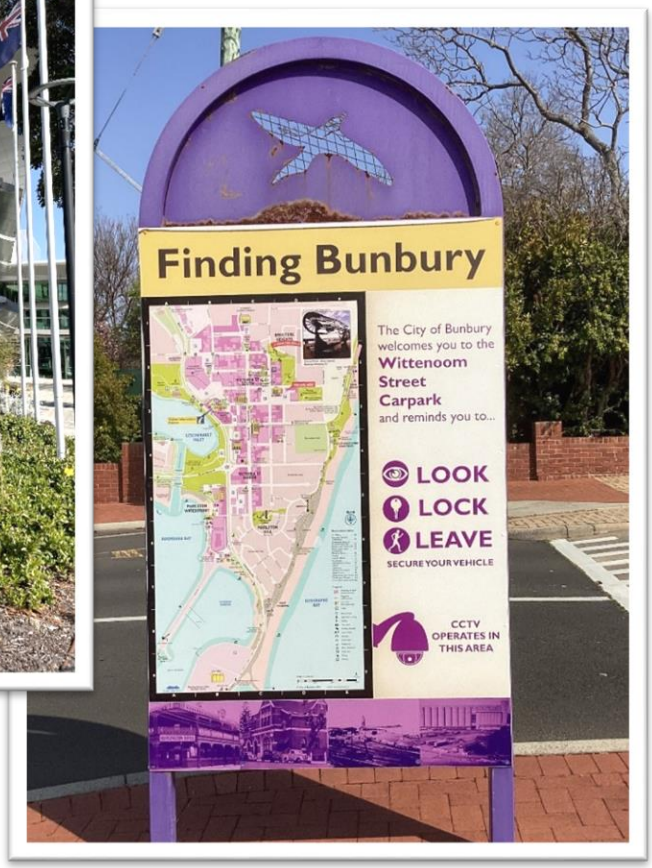
「市長表敬訪問」は、派遣団として、様々な場所を訪れた中でも、重要なミッションの一つと言っても過言ではなかった。市庁舎の中の広々とした空間。市長、議員をはじめ大人たちに囲まれ、生徒たちの緊張感が伝わる中、アボリジニの方のスピーチで幕を開けた。オーストラリアを長く守ってきた、先住民への敬意を払う儀式として、公的な場では必ず最初にアボリジニへの敬意を表すそうだ。厳かで神聖な雰囲気が漂う。いよいよ世田谷代表団がアトラクションを披露する時がきた。手に汗を握りながら見守る。日本の国歌を紹介する生徒のスピーチを優しい表情で見守っていた聴衆が一斉に立ち上がる。バイオリンの音に続いてホール中に響く生徒の歌声。続いて、Waltzing Matilda の披露。オーストラリアの人々に長く愛されている歌と聞いてはいたものの、実際の反応はどうだろうか。歌詞はしっかり覚えられただろうか。歌が始まるとすぐに、そのような心配は消え、生徒たちの表情や歌声に惹き込まれた。市長や議員の方々も目を潤ませているように見えた。

団員の生徒たちは、BCGS のコテージで寝食を共にし始めるとすぐに打ち解け、BCGS の生徒とも同じテーブルで食事をしたり、一緒に遊んだりしながら、交流を深めていった。また、送迎してくださったバスの運転手さんや訪問先のスタッフ、ボランティアの方々、同年代の現地の生徒たちと積極的にコミュニケーションを図り、会話を楽しむ姿に嬉しく思った。生徒の適応力、柔軟性もさることながら、現地の方々の温かい心遣いがあってこその１０日間であった。

最後に、派遣でご一緒させていただいた紺谷校長先生を始め、今中さん、岩田さん、派遣団の１２名の生徒の皆さん、そして、快く送り出してくださった梅丘中学校の職員の皆様、このような機会を与えてくださった全ての関係者の方々に感謝を申し上げます。

# 関連資料

CITY OF
BUNBURY
Prinsep Street
ENTRANCE
Main Entrance
Administration
Council Chambers


Finding Bunbury
The City of Bunbury welcomes you to the Wittenoom Street Carpark and reminds you to...
LOOK
LOCK
LEAVE
SECURE YOUR VEHICLE
CCTV OPERATES IN THIS AREA

# バンバリー市の概要

人口＝約 3.2 万人　　面積＝約 65 ㎢

バンバリー市は、西オーストラリア第 2 の都市で、インド洋に面したオーストラリア南西部の主要な港町として栄えました。豊かな大自然に恵まれ、市内ではカンガルーなど野生の動植物に出会うことができます。一方、市街地から徒歩圏内には海水浴のできるビーチがあり、マリンスポーツが盛んに行われています。

世田谷区とは世田谷区の小学生がバンバリー市を訪問したことがきっかけで交流が始まり、1992 年 11 月に姉妹都市提携が結ばれました。その後、小・中学生を対象とした教育交流、お互いの国の音楽や写真を通した文化交流、市民マラソン大会へ相互に参加するスポーツ交流など、様々な交流が続いています。

2022 年には、姉妹都市提携 30 周年という節目の年を迎え、ますます交流の輪が広がっています。

**参 考**

○　東京とバンバリーとの時差　－1 時間

○　東京からバンバリーまでの所要時間（シンガポール経由航空路）　約 12 時間

# 世田谷区とバンバリー市の交流の歩み

| | |
|---|---|
| 1991.10.28-31 | 世田谷区小学生海外派遣開始（その後毎年派遣） |
| 1992.11.10 | 世田谷区議会議場で姉妹都市提携調印（大場区長、アーネスト・マネア バンバリー市長） |
| 1993.4.28-5.5 | 世田谷区民がオーストラリア・マスターズゲーム・ドラゴンボート大会参加 |
| 1993.6.23-28 | 区内音楽団体がバンバリー市・アイステッドフォド（音楽祭）に参加。伝統芸能を披露 |
| 1994.5.11-18 | 世田谷区民がバンバリー市マラソン大会に参加 |
| 1995.5.3-8 | 世田谷区民がバンバリー市マラソン大会に参加 |
| 1995.9.3-30 | 世田谷区民写真展入賞者作品をバンバリー市交流写真展に展示（その後 2 年に一度双方の都市で実施） |
| 1995.10.2-5 | バンバリー市中学生が区内の学校を訪問、生徒の家庭にホームステイ |
| 1996.5.20-24 | バンバリー市長および訪問団来訪 |
| 1996.10.1-6 | バンバリー市小学生が区内の学校を訪問、生徒の家庭にホームステイ（その後毎年来訪） |
| 1997.11.6 | バンバリー市議会議場で姉妹都市提携 5 周年確認宣言書署名式実施 |
| 1998.11.11-13 | バンバリー市長および訪問団来訪 |
| 1999.9.26-10.1 | バンバリー市中学生バスケットボールチーム来訪。区内中学校チームと親善試合実施 |
| 2000.8.2-6 | バンバリージャズバレエ団来訪、区民まつりに出演 |
| 2002.5.14-18 | バンバリー市長および訪問団来訪。世田谷区議会議場で姉妹都市提携 10 周年確認宣言書署名式実施 |
| 2002.11.6-8 | バンバリー市にて姉妹都市提携 10 周年記念式典実施 |
| 2007.6.11-16 | バンバリー市長および訪問団来訪。世田谷区議会議場で姉妹都市提携 15 周年確認宣言書署名式実施 |
| 2007.10.31 | バンバリー市にて姉妹都市提携 15 周年記念式典実施 |
| 2007.11.18 | 世田谷 246 ハーフマラソンにバンバリー市から招待選手が参加 |
| 2008.5.14-21 | 世田谷区民がバンバリー市マラソン大会に参加（その後毎年派遣） |
| 2009.9.25-28 | バンバリー市高校生が区内の学校を訪問。区内でホームステイ |
| 2010.11.18-24 | 世田谷 246 ハーフマラソンにバンバリー市から招待選手が参加（その後毎年来訪） |
| 2012.6.10-18 | バンバリー市長および訪問団来訪。世田谷区議会議場で姉妹都市提携 20 周年再確認宣言書調印式実施 |
| 2012.10.27 | バンバリー市にて姉妹都市提携 20 周年記念式典実施 |
| 2013.9.27-30 | バンバリー市中学生が来訪。区内でホームステイ |
| 2014.11.17-19 | オーストラリア姉妹都市会議に参加 |
| 2016.9.15-24 | 第１回中学生親善訪問団バンバリー市訪問　生徒 15 名、引率 5 名 |
| 2017.1.14-22 | バンバリー市中学生親善訪問団来訪 |
| 2017.10.30 | バンバリー市にて姉妹都市提携 25 周年記念式典実施 |
| 2018.5.9-16 | バンバリー市長および訪問団来訪。世田谷区議会議場で姉妹都市提携 25 周年再確認宣言書調印式実施 |
| 2018.9.10～9.23 | 第２回中学生親善訪問団バンバリー市訪問　生徒 20 名、引率 4 名 |
| 2019.1.11～1.25 | バンバリー市中学生親善訪問団来訪 |
| 2020.4～2023.3 | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により直接交流休止（マラソン交流のみオンライン実施）。 |

| | |
|---|---|
| 2022.11.10 | 姉妹都市提携 30 周年（コロナ禍につき親善訪問・式典等は中止） |
| 2023.9.8-17 | 第３回中学生親善訪問団バンバリー市訪問　生徒 12 名、引率 4 名 |
| 2023.11.30-12.1 | バンバリー市長来訪 |

令和5年度世田谷区姉妹都市中学生教育交流派遣事業

（オーストラリア・バンバリー市）

活動報告書

令和6年3月発行

編集・発行　世田谷区 生活文化政策部 文化・国際課
〒156－0043 世田谷区松原 6－3－5
Tel 03－6304－3439 Fax 03－6304－3710
広報印刷物登録番号 No.2225